

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

天応中学校区 校番16 学校名 呉市立天応中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>① 資質・能力を育て、確かな学力の向上を図る(探究の過程を通して)</p>	<p>基礎・基本の徹底と豊かな対話の場の構築(学力向上)</p>	<p>【結果】 ○全国学力・学習状況調査で、正答率が全国平均を上回った生徒の割合は43%である。 ○3割未満の生徒数は減少していない。 1学期末試験において、国語・数学・英語の3教科で、18.6%(1年9.7%, 2年17.4%, 3年28.1%)の生徒が3割未満の教科があった。 【考察】 ○宿題の提出ができていないなど、生徒に継続して学習する力が付いていない。</p>	<p>○「思考力・判断力・表現力」を育成する授業を展開する。各教科で「問い」の質を高めるよう、研修を行う。 ○3年生は放課後の補充学習を開始する。 ○T・Tで授業を行うことで、個に応じた支援を行う。 ○各学年で天中タイムの改善を行う。</p>
**	<p>自立し、自律につながる生活基盤の確立</p>	<p>状況に応じたセルフコントロール能力の発揮</p>	<p>【結果】 ○各授業での振り返りはできている。 「どこまで分かったか」「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えている生徒の割合は、81.1%(1年90.6%, 2年75%, 3年79.4%)である。 【考察】 ○授業について、分かったことや分からなかったことを整理したり、もっと考えたいことなどを考えたりしている生徒が多い。しかし、授業の振り返りが、家庭学習につながっていない。</p>	<p>○小中で統一した振り返りカードを、自分をより振り返ることができるよう改良した。今後、その活用を図る。 ○自己調整をしながら、主体的に学習するという経験を積ませるため、渡り廊下に高校入試問題を設置した。学習する意欲や、充実感をもたせていく。</p>
**	<p>心豊かで、社会性を身に付けた児童生徒の育成</p>	<p>状況に応じたセルフコントロール能力の発揮</p>	<p>【結果】 ○メディアコントロールの目標達成時間を達成できた生徒の割合は、56.3%(1年84%, 2年26%, 3年17%)であった。しかし、目標を達成できた回数が5回以下の生徒の割合が、1年:16%, 2年:26%, 3年25%であった。 【考察】 ○学習に対する意識が低く、家庭学習が定着していない。</p>	<p>○フォーサイトに家庭での学習時間を記入させ、学習時間の定着を図る。 ○昨年度に生徒が決めた、ICT機器の使用についてのルールを見直す場をもつ。 ○学年通信等で保護者に協力を求める。 ○来年度に向けて、小学校と一貫した取組を検討する。</p>
*	<p>誰もが安全で安心して学べる教育環境の確保</p>	<p>教育の質の向上と生活のバランスのとれた働き方の確立</p>	<p>【結果】 ○「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は、74.4%(1年75.1%, 2年70.8%, 3年76.5%)である。 ○体育祭等の行事を実施した後のアンケートにおいても、自己肯定感が高いという結果が出ている。 【考察】 ○自己の目標を立て、体育祭の団といった他者との協力がなされている。</p>	<p>○生徒の頑張りや、掲示物等で紹介するなど、適時、評価する。</p>
			<p>【結果】 ○教職員のアンケートの「生徒と向き合う時間が確保されている」について、肯定的な回答が7割に止まった。 ○時間外在校等時間が月45時間を超えた人数は、4月:10名、5月:6名、6月:8名、7月:6名、8月:1名であった。 【考察】 ○時間外在校等時間について、月45時間を超えた人数は、昨年度のべ5名、今年度のべ31名と大幅に増加している。生徒と向き合う時間の確保についての肯定的な回答の大幅な減少も含め、新学習指導要領の完全実施、タブレット導入、人事異動による校内の役割の変化等、新しい取組への対応に時間がかかっていることによるものだと考える。</p>	<p>○教職員がアイデアを出し合い、全教職員が時間外在校等時間月45時間未満を達成できるよう工夫する。 ○業務の効率化、業務分担の見直しを行うとともに、織的な校務運営を図る。 ○全教職員が「入校7時30分、退校19時」を意識し、業務を遂行する。</p>

